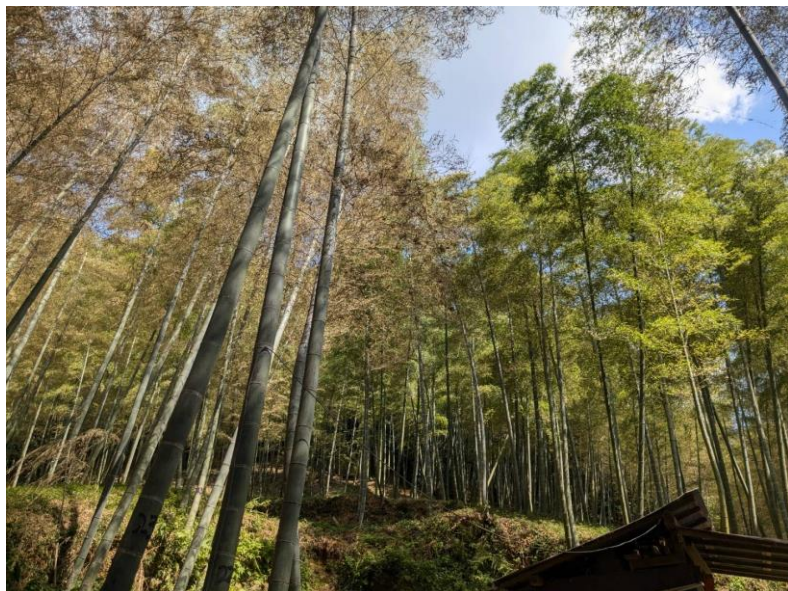


営農ウィークリーNEWS

竹を食害するチョウ目害虫の防除について



左：隣接圃場の被害 右：BT剤を散布した圃場

今年度、府内の竹林で、竹の緑葉を食害するチョウ目害虫が大発生し、圃場の緑葉が皆無になるほど、甚大な被害が生じています。

JA 京都中央でも、経済部営農販売課が管内の筍畑の被害状況を調査しました。

その結果は、被害状況は甚大なものから軽微なものまで地域差はあるものの、京都市西京区・向日市・長岡京市・大山崎町など西山一帯で、すべての地域で被害を確認しました。

そういった状況を重く受け止め、京都

乙訓農業改良普及センターを中心に、行政機関、JA ともに対策方法を探しておりました。

今回、京都乙訓農業改良普及センターからの情報によると、BT剤の一種「エスマルクドライフロアブル」(1000倍、収穫前日まで)による防除を試みた生産者の方とタケノコ栽培圃場を確認し、十分な効果を発揮していると判断されています。

今後、被害拡大を避けるため、各自のタケノコ栽培圃場を確認していただき、食害被害が大きかったり、隣接の圃場から害虫(幼虫)の侵入が懸念されたら、BT剤を散布して、被害拡大を食い止めましょう。

※薬剤散布の際には、必ずマスク・手袋・ゴーグル・カップを着用して下さい。

TAC information

BT剤とは



BT剤とは、バチルス・チューリンゲンシス(BT)という細胞を利用した殺虫剤です。

BT菌がつくる殺虫性たんぱく質を鱗翅目害虫の幼虫が食べると、アルカリ性の消化液で溶解され、さらにたんぱく分解酵素により殺虫力を示すたんぱく質にまで分解され活性化されます。食後2~3時間で摂食活動を停止し、2~3日後には死亡します。効果は遅効的ですが、被害の進行はゆるやかです。

BT剤は、人畜に対する安全性が高いこと、抵抗性がつきにくいこと、農薬の成分使用回数にカウントされないことが特徴です。

『京おくら』農福連携の取組 福祉事業所で出荷調整作業を指導



8月19日 福祉事業所で農福連携の取組を推進するために「京おくら」出荷調整作業の出前授業を行いました。

JA 京都中央では、2019年から夏季の特産品として「京おくら」の生産振興を行っていますが、最盛期の出荷調整作業に労力を要する課題がありました。

2023年には、「京おくら」の出荷調整作業を福祉事業所に作業委託し、労働力不足の解消につながった優良事例があり、2024年には、取組が拡大しています。

今後も、福祉事業所の協力による対応可能な作業を生産者と関係機関で調整し、農業生産現場での労働力不足解消に取り組んでいきます。